

定例自然観察会報告書

2023年 4月 8日(土)

4班 竹上秀己

実施日	2023年4月8日(土)
テーマ	タムシバの道を歩く
コース	奥池 ~ 観音山 ~ ごろごろ岳 ~ 奥池
集合	9時30分 奥池集会所前バス停東広場
解散	14時45分 奥池
参加者	ビジター 21名 会員 31名 (内4班 19名)

「晴れ時々曇り」の天気予報だが、「所によりにわか雨」もついている。集合時刻になっても曇り空で気温はかなり低い。風が吹くと寒さを感じる。

最初に全体で奥池周辺の地形がどのようにしてできたか、奥池にかかわる水の話などを行う。全体での話が終わると、4班に分かれグループごとの観察を始める。「奥池あそびの広場」でヤドリギの仲間の半寄生植物マツグミを観察する。手は届かないが比較的近くに見ることができ、小さな果実を着けているのがわかる。この広場では、ヤマボウシの枝ぶりや冬芽・イロハモミジの花・ヤエベニシダレの花・オオバヤシャブシの枝先なども観察する。広場までにも、アオキ・クサイチゴ・ナガバモミジイチゴ・サルトリイバラの花やキランソウなどを観察する。

広場から熊笹峠分岐までの道は観察するものが多い。ヒサカキ・クロモジ・アセビ・オンツツジ・コバノミツバツツジ・モチツツジ・カンサイスノキ・ウリカエデ・ウリハダカエデ・ケヤマハンノキ・コバノガマズミ・マルバアオダモ・リョウブ・タカノツメ・コシアブラ・アオハダなど。花を着けていないものもそれぞれの特徴が確認できる。ヒサカキは花期の終わりころで花は少なくなっているが、雄花・雌花の違いを観察する。クロモジは花盛りで、「クロモジも多いのですね。花もきれい」との

観察風景

ビジターの声を聞く。クロモジも雌雄異株で雄花と雌花の違いが観察できる。カンサイスノキは若葉だけでなく多くのつぼみを着けている。ピンクの花でコバノミツバツツジが一際目立っている。

今回はビジター一人ひとりにルーペを渡し、各自ルーペでの観察ができるようにしたことが、ヒサカキやクロモジ・イロハモミジなどの小さな花などの観察に有効だった。ま



た、この道の途中で、マルバアオダモの樹液をしみ出させた水に太陽光やブラックライトの光をあて、青く光るようすを見てもらったことも植物の神秘的な一面を知る機会になったのではないかと思う。

前日の雨の影響を心配していたが、まず奥池北隣の池の水が満ちて、奥池に流れ込んでいのに驚く。道にも水が溜まっているので歩きにくい。奥池からごろごろ岳分岐までに道が川のようにになっている場所が2か所あり、そこでは道の中央が歩けない。沢を渡る場所でも水量が多くなり、石を伝って渡るのにバランスをくずしやすい状況で、足を水の中へ落としてしまった人もある。

タムシバの花はほとんどが散ってしまっている。熊笹峠分岐からはタムシバの花を見ながら歩く予定だったが、所々に残るタムシバの白い花を見つけながら歩くことになる。

観音山までにショウジョウバカマやシライトソウのロゼット・シハイスミレ・ベニドウダン・ヤブツバキなどを観察する。観音山山頂からの展望は良好で、前日雨が降ったためか、あまりかすんでいない。北からの風がかなり強いので断層と地形の話の短めにして、風の当たらない南側で昼食とする。(2班が山頂で、他の2班は山頂から少し離れた場所で昼食) 昼食を終えるころ北側の空が灰色になり、短い時間だが急にあらがれが降り始める。雹に近いあらがれで普通のあらがれより大きい。(5mm以上で雹) ヒノキバヤドリギを見て、山頂を出発する。

前半は観察するものが多くゆっくりペースだったが、寒さのため昼食時間は短くなり、後半は観察するものも少ないのでペースが速くなる。歩いてても体が温まらないほど寒い。奥池との分岐を過ぎ、ごろごろ岳に向かう途中で、ようやく多くの花を着けたタムシバを見ることができ

る。予定より早くごろごろ岳に到着し、そのあと舗装道路を下りながら、ナガバタチツボスミレ・タチツボスミレ・シハイスミレ・ヒメスミレなどのスミレやカキドオシ・ツクバキンモンソウ・ヒメオドリコソウなどの草本や枯れたアカマツに生えたヒトクチャタケ・サワラの葉・マツグミの果実・コブシとハクモクレンの花などを観察する。中には入れなかったがイモリ谷湿地にも寄る。

バスの時刻に余裕をもってバス停に着き、解散となる。

ショウジョウバカマの花



観音山山頂から展望

